

歴史探訪

クラブ 其の205

History Inquiry Club



文化財課 ☎22-1720
(博物館) FAX 22-2028

「青年団」があった頃

青年団に懐かしさを感じるのは40歳代後半以上の方ではないでしょうか。江戸時代には村の若者組、若者連などと呼ばれていましたが、引き継がれ、明治時代半ば以降から青年会と改称されます。この時は男性のみで構成され、女性の組織(処女会)が別にあります。青年会(団)は、各字(現在の自治会)単位で始まり、町(村)、やがて郡・県という連合会組織が編成され、広域な活動となっ

ていきます。

渥美町・赤羽根町では戦後に青年団と改称されましたが、国・県・郡が青年団と称しながら、田原町は昭和36年に機構・会則を改めたにも関わらず青年会の名称のままでした。

野田村南の青年社(団)の昭和27年に改めた社則には、その目的を「学術を研究し教養を高め身体を鍛錬して規律を守り礼儀を正しくし心義を重し社会生活の基礎を修得して協同一致して事業を行い社会に奉仕する」とあります。



●昭和27年 野田村南青年社社則



●野田村南青年社入社の際、これで青年の一員になる誓いを立てた

半ば強制参加の活動から、戦後の社会教育法によって、自主的に参加し個人を研さんし、さらに地域への貢献を意識した目的に変化しようとしている過程が分かります。

また、戦後には、男女で組織されていたことも注目されます。

田原町の青年会報『潮の音』(昭和52年)には、町の青年会の校区巡回、学習活動(ユースカレッジ)、女子活動、文化活動(文化祭)、社会活動(交通安全)、奉仕活動(清掃)、スポーツ活動(各種スポーツ大会)など実に多くの活動が報告されています。町だけではなく、支部(校区)、地区の活動もあるので、青年会の活



●田原町青年会会報誌『潮の音』文化活動 セタフェスティバル

動は実に活発でした。特に盆踊りでは地域の中心となり大いに盛り上げていました。良く学び、遊び、仲間を増やしていったことが分かります。

昭和の終わり頃には男性は25歳頃、女性は22歳頃で退会というのが慣わしで、青年団員は、その間に活動を通して結婚相手を見つけた方も多かったようで、団は若者の有効な交流の場だったのです。もちろん青年団は地域を支え、活力を与える大事な役割も担っていました。

田原町では、昭和52年に500人以上いた会員が昭和59年には半減し、さらに平成6年以降は急激に会員数を減らし、町の青年会から脱会する支部も増えました。3町の青年団も例に漏れず平成16年頃にはなくなってしまうました。これは、進学率が高くなったこと、職業の多様化、通勤範囲の拡大が直接的な理由に挙げられます。

また、情報の多様化、仲間意識の変化も挙げられるでしょう。しかしその本来の目的は魅力的ですし、その時代を経験した人たちにとって寂しいことです。

(学芸員 増山禎之)